

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ピーと熊野教室		
○保護者評価実施期間	令和6年11月30日		～ 令和6年12月12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日		～ 令和6年12月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月11日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的支援を実施できる支援員が複数いる。	支援員同士で利用児童に合わせた支援・対応方法について情報交換を行っている。個別課題や集団活動、自由時間において専門的支援を実施し、利用児童の特性に応じた支援を実施している。	大まかな実施計画しか立案できておらず、偏りがみられている。各児童の課題ファイルの中にカレンダーを入れ、児童と話し合っって専門的支援を実施する日を決めていく。月の利用日数で専門的支援を実施できる回数が決まっているが、利用児童に対して万遍なく実施できるように計画を立案していく。
2	保護者会やペアレントトレーニングを企画・実施することにより、保護者同士の情報交換や交流の機会が設けられている。	保護者会を同月に2回実施し、保護者が日程調整をしやすいように配慮をしている。案内を配布する際には紙ベースとし、送迎時に保護者へ直接渡すと同時に口頭で保護者会の開催について伝えるようにしている。	前回開催は昨年11月で、開所して間もなくだったため、参加人数が充分ではなかった。次回開催する際には前もって伝えるようにし、また、楽しんでもらえるような企画を立案し、多くの保護者に参加してもらえるようにしていく。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	就学前に利用していた保育所や幼稚園、児童発達支援事業所との情報共有と相互理解について。	弊社の児童発達支援事業所を利用していた児童に関しては情報共有が実施できている。一方、その他外部の保育所や幼稚園、児童発達支援事業所を利用していた児童についての情報交換は前例が少ない。	相談支援事業所と連携を図り、必要に応じて保育所や幼稚園、児童発達支援事業所等との情報共有が円滑に行えるように整備していく。
2	避難訓練や災害時の対応について十分な周知がされていない。	契約時に避難訓練や災害時の対応について説明を行っているが、他の情報量と比べて詳しくないことや、口頭での説明によって十分な理解が得られていない可能性が考えられる。	避難訓練の実施や災害時の対応について、会報に掲載するより周知されやすいのではないかと考えられた。
3			